

金融広報中央委員会では、金融教育を日ごろより実践している団体や関係官庁、学識経験者からなる「金融経済教育推進会議」の事務局も務めています。今般、同推進会議のイニシアティブの下、金融リテラシー啓発用共通教材「コアコンテンツ」を策定し、「知るぽると」WEBサイトに公開しました。

※金融リテラシー（Literacy）とは、お金の知識・判断力のことをいいます。

詳しくは [https://www.shiruporuto.jp/public/data/lecture/daigaku\\_core/](https://www.shiruporuto.jp/public/data/lecture/daigaku_core/)



「知るぽると」WEBサイトを  
ご覧ください。

金融リテラシー啓発用共通教材「コアコンテンツ」を  
「知るぽると」WEBサイトに公開しました  
大学1コマ90分用の金融リテラシー・モデル講義資料  
「金融経済教育のためのコアコンテンツ」(金融経済教育推進会議了承)

この「コアコンテンツ」は、「金融リテラシーの全体像にふれつつ、その基本となる概念を紹介し、人生とお金の関係について関心を持っていただくためのエントリー教材」として、作成されました。

大学生向けとして作成されていますが、多くの部分は若手社会人向けにも活用できるなど、金融経済教育分野で幅広く利用が可能なコンテンツとなっています。

教員の方はもとより、金融業界、関係官庁など、この分野に携わる方が金融リテラシーに関する講義やセミナーを行う際、広くお使いいただける共通教材です。このため、利用しやすいように、パワーポイントによるスライド形式となっています。

スライドのイメージや具体的な活用法をいくつかご紹介します！

金融経済教育のための  
コアコンテンツ

金融経済教育推進会議コアコンテンツ準拠  
赤星(★)付スライド=「お褒め」(全43枚)

## 金融リテラシーとライフデザイン ～人生、お金、金融知識

2019年〇〇月〇〇日  
〇〇〇〇協会  
山田 太郎

できるだけ多くの場面で多くの方に利用していただけるよう、使用条件をシンプルにするなどの工夫をしています。  
「知るばると」WEBサイト掲載の「本講義資料の使用に関する留意事項」をよくお読みのうえ、ぜひご活用ください！

人生と、お金と、そして経済のつながりについての金融リテラシーを身に付けられるよう、さまざまな話題を取り扱っています。

金融経済教育推進会議コアコンテンツ準拠

### 目次

- 0 はじめに～この講義の目的
- 1 家計管理とライフプランニング  
～働いて「稼ぐ」ことと、将来に備えることについて
- 2 「使う」
- 3 「貯める・増やす」～資産形成
- 4 「備える」～社会保険制度と民間保険
- 5 「借りる」
- 6 最近のトピックス
- 7 金融と経済
- 8 金融トラブル
- 9 最後に

2

スライド右肩に赤星(★)のあるスライドは、90分の講義を念頭に置いたときの「特にオススメ！」のスライドですが、時間や講義のペースに応じて、さらに枚数を絞り込んでご利用いただくことも可能です。  
また、赤星(★)のないスライドは、講義される方や受講される方の興味に応じて適宜、取捨選択して、ご利用ください。

3. 「貯める・増やす」～資産形成

3-3. 金利を実感してみよう(72の法則！)

72の法則 「元本が2倍になる金利と年数の関係」

(%) お金が2倍になる期間(年)

$72 \div \text{金利} = \text{期間}$

(例) 10,000円(元本)が20,000円になるのに必要な年数

世代イメージ	祖父母世代	親世代	今
	預金金利：8%	預金金利：6%	預金金利：0.01%
	約9.0年	約11.9年	約6,932年
	$72 \div 8$	$72 \div 6$	$72 \div 0.01$

10,000円(元本)が20,000円になるのに必要な年数

25

6-1. Fin Tech

6-1. デジタルイノベーションの進展③  
主な FinTechサービス

- (1) 決済サービス  
スマホ・Web決済・送金
- (2) 融資サービス  
P2P(個人間)レンディング、ソーシャルレンディング
- (3) クラウド・ファンディング
- (4) 投資・運用サービス  
ロボアドバイザー
- (5) 家計管理サービス(PFM)
- (6) 暗号資産(仮想通貨)  
ブロックチェーン技術



61

各テーマについて、関心を持っていただくだけでなく、より深い学びにつなげたいニーズがある場合には、講義のなかに、受講者間でのディスカッションを盛り込むなどアクティブラーニングを意識した工夫を加え、2コマないし3コマで取り扱うアプローチも考えられます。